

昭和61年度消化器集団検診全国集計

日本消化器集団検診学会全国集計委員会

久道 茂¹⁾・土井偉誉²⁾・岩崎政明³⁾

有末太郎⁴⁾・山田達哉⁵⁾・吉川邦生⁶⁾

北 昭一⁷⁾・古賀 充⁸⁾・小野良樹⁹⁾

北條慶一¹⁰⁾

昭和61年度消化器集団検診全国集計

日本消化器集団検診学会全国集計委員会

久道 茂¹⁾・土井偉誉²⁾・岩崎政明³⁾

有末太郎⁴⁾・山田達哉⁵⁾・吉川邦生⁶⁾

北 昭一⁷⁾・古賀 充⁸⁾・小野良樹⁹⁾

北條慶一¹⁰⁾

I 調査方法

全国集計委員会が担当する全国集計は、今回でその4回目にあたる。調査は、前年度とほぼ同様の方法でおこなった。すなわち、昭和62年11月初め、全国の検診機関に調査票を送り、63年1月末日を締切とした。

表1に、全国7ブロック別の全国集計アンケート協力検診機関数を胃集検、内視鏡集検、食道集検、大腸集検および肝胆脾集検の項目に分けて示した。胃集検では、昨年の375機関よりやや少ない366機関となっているが、これは各機関が合併や統合されたため、あるいは報告を各地域でまとめて提出したためもあると考えられる。前年度と比較して胃集検以外の消化器集検をおこなう検診機関の数が幾分増加している。特に、大腸集検は昨年の47機関から65機関に約4割増となっている。

II 胃集検全国集計成績

1. 集検実施機関の区分と集検総数

検診機関の区分では、追跡調査や検診の統計を最もよくおこなっているI群が、間接集検機関では298カ所(81%)で、昨年と比べて数とパーセントとも

に増加している(表2)。

昭和61年度の総数は5,030,852人で、発見胃癌実数は5,922人(0.12%)、精検受診者率が100%とした場合の推定数は7,492人(0.15%)であった(表3)。

胃集検の全国集計数の年次推移は図1の通りで、61年度は、受診者総数は約503万人で、前年度の516万人と比べて、約13万人の減少になっている。

2. 撮影装置と撮影方法

間接X線装置の使用状況をみると、全体の955台のうち、車検診と施設検診とは異なるが、あわせて816台、85.4%は100mm間接を用いており、前年度の82.7%と比べるとわずかなのびを示している。

また、I.I.間接は、837台で、全体の87.6%を占めており、100mm間接のI.I.方式がほぼ定着したものと考えられる(表4)。

胃X線撮影法について検診機関数を分母にしてみると、撮影枚数は間接集検では5枚が2.1%、6枚が34.1%で、7枚以上が61.6%で、学会の勧告した標準撮影枚数がかかなり定着しつつあるといえる(図2)。発泡剤の使用は、間接、直接集検ともに、ほとんどの機関が(図3)、また、バリウムの濃度と量については、従来と同様、間接集検では、100~119%の200~249mlが、直接集検では、120%以上の250ml以上が大部分を占めている(図4、5)。下剤の使用は、間接集検が94.5%、直接集検で94.0%となっている(図6)。

撮影者については、間接集検では、医師が撮影する機関は4.0%、技師がおこなうものは90.1%、両者で撮影するもの3.8%であった。直接集検では医師が22.9%、技師は52.5%、両者が20.7%となっている(図7)。

3. 稼動状況と検診料

間接集検の稼動状況と検診料は、1台当りの年間

-
- 1) 東北大学 公衆衛生学
 - 2) 岐阜大学 放射線科
 - 3) PL 東京健康管理センター
 - 4) 北海道対がん協会 検診センター
 - 5) 国立がんセンター
 - 6) 長浜赤十字病院 消化器科
 - 7) 川崎医科大学 公衆衛生学
 - 8) 九州がんセンター
 - 9) 日本大学 内科
 - 10) 国立がんセンター 外科

表1 全国集計アンケート協力機関数(61年度)

ブ ロ ッ ク	胃集検 (間接)	胃集検 (直接)	内視鏡 胃集検	食道集検	大腸集検	肝胆膵集検
北 海 道	14	4	1	3	4	3
東 北	28	6	3	1	10	7
関東・甲信越	142	68	10	22	18	14
東 海・北 陸	60	20	1	13	12	7
近 畿	43	18	0	5	13	10
中国・四 国	29	6	0	0	5	3
九 州・沖 縄	50	13	4	5	3	8
計	366	135	19	49	65	52

表2 胃集検全国集計対象機関の区分(61年度)

	機 関 数	
	間接集検 ¹⁾	直接集検 ²⁾
I 群 性・年齢別に受診者、要精検査、精検、受診者、発見胃癌患者が把握され、且つ癌患者の個人票の揃っているもの	298	105
II 群 性・年齢別に集計されていないもの	56	22
III 群 集検数のみ判明するもの	12	8
計	366	135

(注)：1) 間接X線撮影による胃集検のこと

2) 直接X線撮影による胃集検のこと

表3 対象機関別受診者数と発見胃癌数(61年度、間接・直接の合計)

区 分	受診者数	発見胃癌数 (実数)	(推定数)	率
I 群	4,678,637	5,751	(7,170)	0.12%
II 群	216,241	102	(177)	0.05%
III 群	135,974	69	(145)	0.05%
総 計	5,030,852	5,922	(7,492)	*0.12% (0.15%)

※ 推定数は各群の精検受診率(I群79.7%、II群57.7%、III群47.5%)が100%とした場合、未受診者も受診者と同じ率で、胃癌が発見されるものとして算出したもの

稼動日数は車検診、施設検診ともに平均142～147日で、I、II群の差はみられない。また、1日当りの検診数は車検診で平均42人、施設検診で26～29人で、これもI、II群の差は認められない。検診料金は各群ともほぼ同じである(表5)。

直接集検の場合、施設検診だけになるが、1台当りの年間稼動日数、1台1日当りの検診数は各群でばらつきがある。検診料金は各群ともほぼ同じであ

る(表6)。

4. 読影状況

読影状況についてみると、検診機関に所属する医師で読影している機関は間接で73.7%、直接90.3%であった(図8)。ダブルチェックは、間接集検で76.7%の機関がおこなっており、読影委員会を設置している機関は47.2%であった(図9, 10)。認定医の有無についてみると、間接集検をおこなっている検診

図 1 胃集検の年度別集計対象数の推移
(昭和39～61年度学会による全国集計)

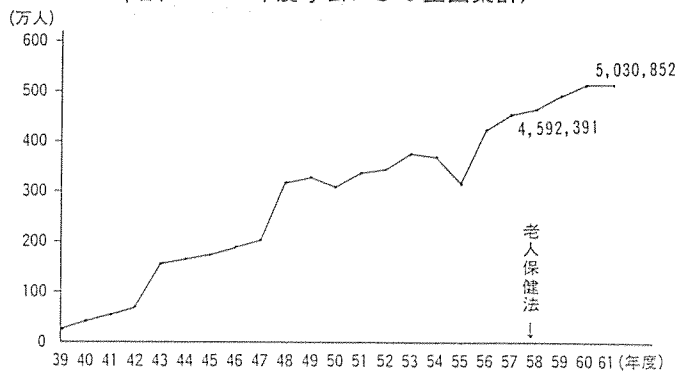


表 4 間接 X 線装置の使用状況とフィルムサイズ (61年度)

		車 検 診		施 設 検 診		計
		70MM	100MM	70MM	100MM	
I 群	I. I. 間 接	30台	481台	23台	175台	709台
	その他	60台	26台	4台	8台	98台
	小 計	90台	507台	27台	183台	
II 群	I. I. 間 接	7台	83台	2台	18台	110台
	その他	8台	6台	0台	0台	14台
	小 計	15台	89台	2台	18台	
III 群	I. I. 間 接	1台	15台	0台	2台	18台
	その他	4台	2台	0台	0台	6台
	小 計	5台	17台	0台	2台	
計 (台)		110台	613台	29台	203台	955台

機関では、53.2%、直接集検の機関では、42.9%に認定医がいるという状況であった (図11)。

5. 精検以後の管理

精検以後の管理の仕方について、間接集検の場合を述べると、精検の実施方法では、自機関または一部他機関に委託しているもの69.9%、残りの26.2%が他に委託という状況で、これは例年通りである (図12)。要精検者に対する受診勧奨をしているのは93.9% (図13)、さらに精検結果の把握をきちんとしているところは92.0% (図14)、さらに精検未受診者への受診勧奨をおこなっているのは82.2% (図15)、発見胃癌患者への手術の勧奨を積極的に進めているのは78.6% (図16)、手術結果の調査をしているところは72.8% (図17)、またその予後調査をしているところは41.8%となっている (図18)。これらの数値は年々高くなっている傾向にあり、精度管理の面から好ましい状況といえる。

直接集検の場合は、発見患者への手術の勧奨をし

ているところが82.2%、手術結果の調査をしているところ72.5%、患者の予後調査をしているところ37.7%で、間接集検より低い値となっている (図12～18)。

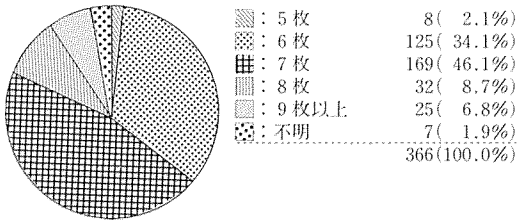
6. 地域・職域検診別の集検成績

61年度の受診者総数5,030,852人を地域検診と職域検診別に分けて検討すると、地域検診が3,039,498人、職域検診が1,991,354人で前者が約60%を占める。地域検診と職域検診を比較すると要精検率は14.5%と11.2%で、精検受診率が各々82.7%と70.9%で両者に差があり、職域検診の1次検診後の管理や追跡調査にまだ不備が感じられる。その結果、後述するように、職域検診では39歳以下の若年層の受診者の占める割合が多いこととあいまって、胃癌発見率が0.05%、地域検診の0.16%の半分以下という数値である。これは前年とほぼ同様である。早期胃癌の割合は、地域の49.8%に対し、職域は54.8%となっている (表7)。また、地域と職域検診を間接集検、直接集検別に検討したものを表8、9に示した (表8、

図 2 胃 X 線撮影法 (61年度)

a. 撮影枚数

〈間接撮影〉 n (機関数) 366



〈直接撮影〉 n = 135

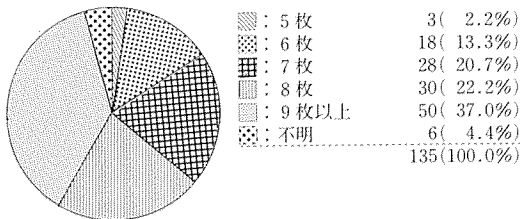
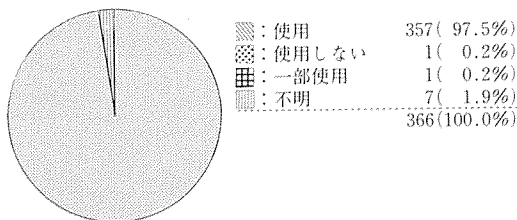


図 3 胃 X 線撮影法 (61年度)

b. 発泡剤の使用

〈間接撮影〉 n = 366



〈直接撮影〉 n = 135

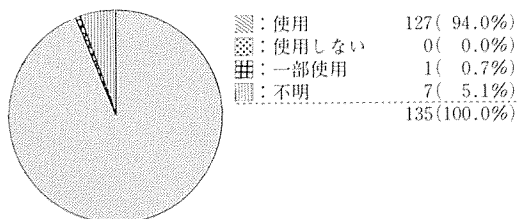
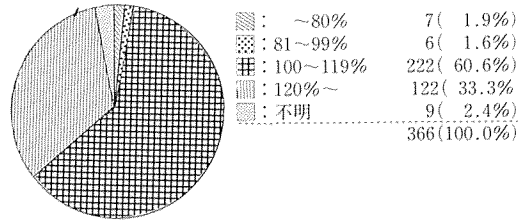


図 4 胃 X 線撮影法 (61年度)

C. バリウムの濃度

〈間接撮影〉 n = 366



〈直接撮影〉 n = 135

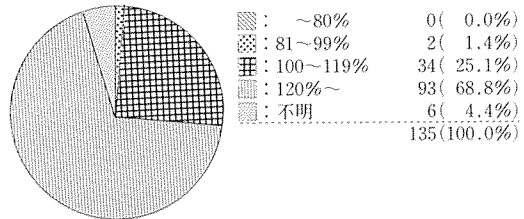
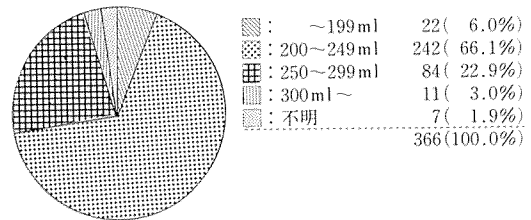


図 5 胃 X 線撮影法 (61年度)

d. バリウム量

〈間接撮影〉 n = 366



〈直接撮影〉 n = 135

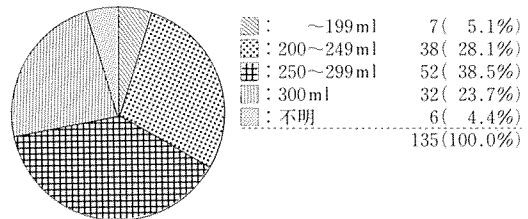


図 6 胃 X 線撮影法 (61年度)

e. 下剤の使用

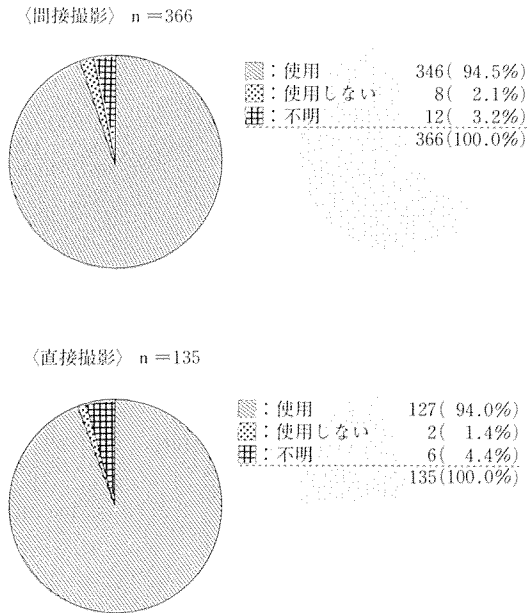


図 7 胃 X 線撮影法 (61年度)

f. 撮影者

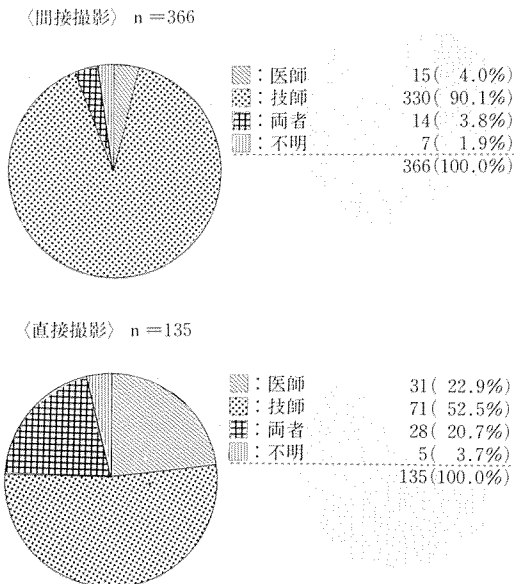


表 5 間接集検の稼動状況と検診料 (61年度)

		車 検 診	施 設 検 診
一台当りの 年間稼動日数	I 群	142日	146日
	II 群	147日	142日
	III 群	104日	139日
一台一日当り の 検 診 数	I 群	42人	29人
	II 群	42人	26人
	III 群	39人	51人
一人当りの 検 診 料 金	I 群	3,074円	3,474円
	II 群	3,334円	3,856円
	III 群	3,202円	—

(平均値)

表 6 直接集検の稼動状況と検診料 (61年度)

一台当りの年間 稼動日数	I 群	175日
	II 群	40日
	III 群	227日
一台一日当りの 検 診 数	I 群	21人
	II 群	17人
	III 群	14人
一 人 当 り の 検 診 料 金	I 群	9,450円
	II 群	10,937円
	III 群	9,160円

(平均値)

図 8 読影状況 (昭和61年度)

a. 読影者

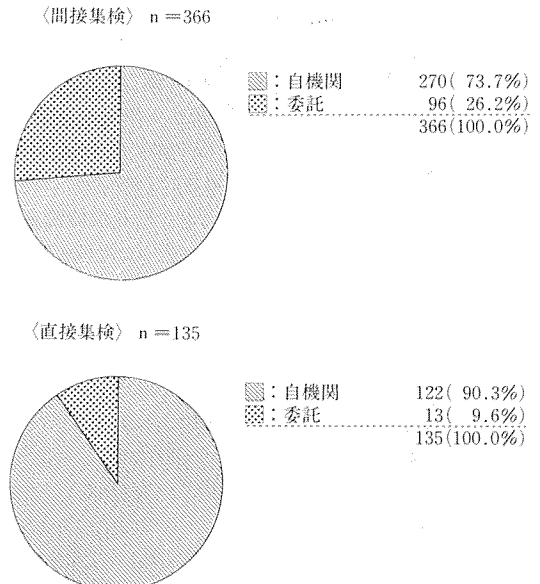
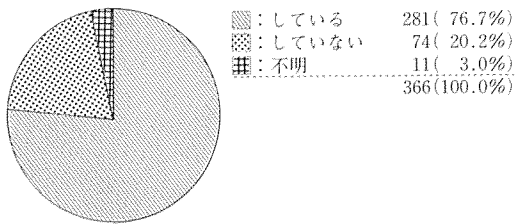


図9 読影状況 (61年度)

b. ダブルチェック

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

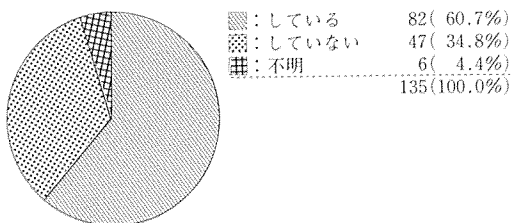
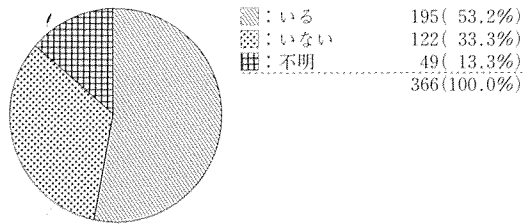


図11 読影状況 (61年度)

d. 認定医

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

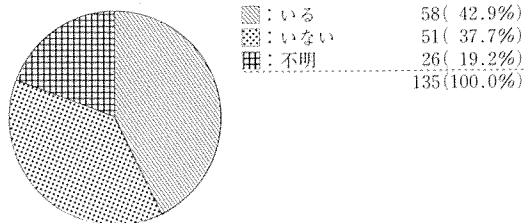
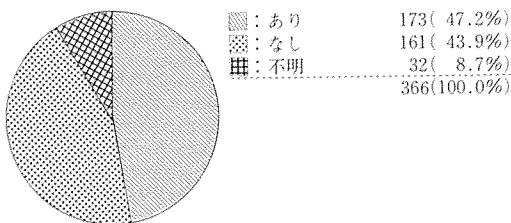


図10 読影状況 (61年度)

c. 読影委員会

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

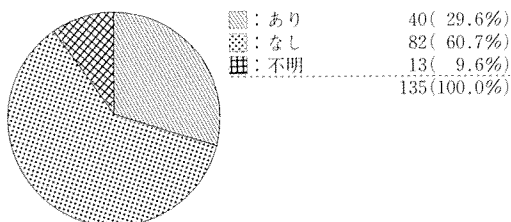
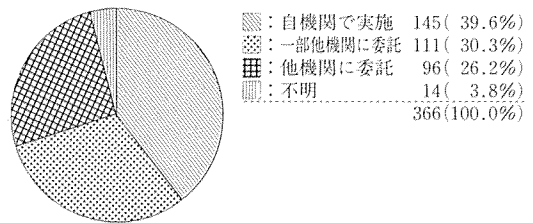


図12 精検以後の管理について (61年度)

a. 精検の実施方法

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

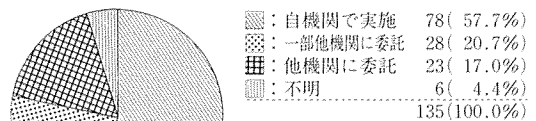
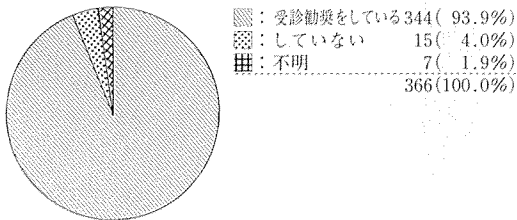


図13 精検以後の管理について (61年度)

b. 要精検者に対する受診勧奨

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

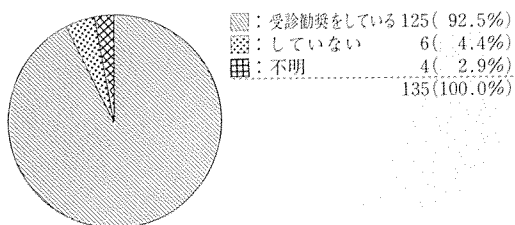
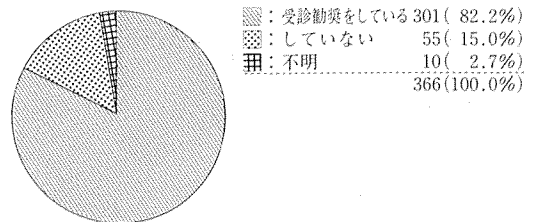


図15 精検以後の管理について (61年度)

d. 精検未受診者への受診勧奨

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

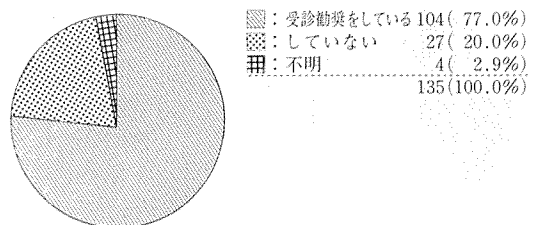
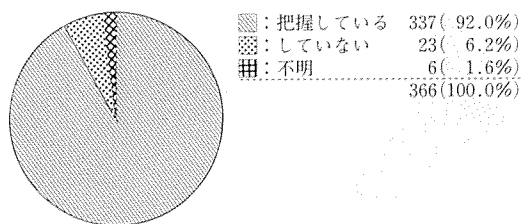


図14 精検以後の管理について (61年度)

c. 精検結果の把握

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

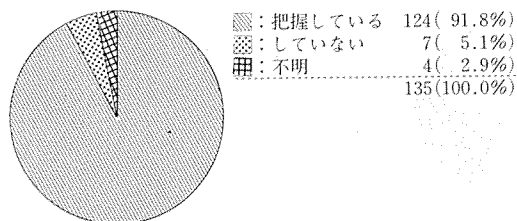
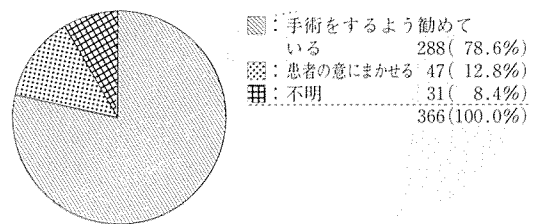


図16 精検以後の管理について (61年度)

e. 発見癌患者への手術の勧奨

〈間接集検〉 n = 366



〈直接集検〉 n = 135

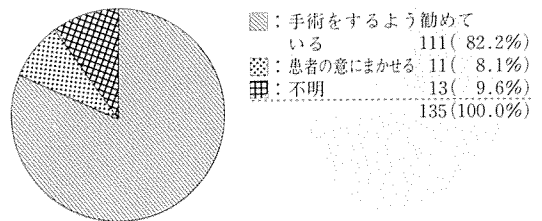


図17 精検以後の管理について (61年度)

f. 手術結果の調査

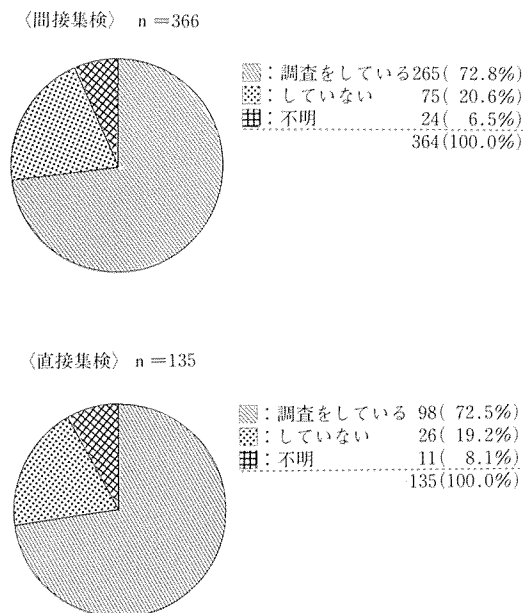


図18 精検以後の管理について (61年度)

g. 手術患者の予後調査

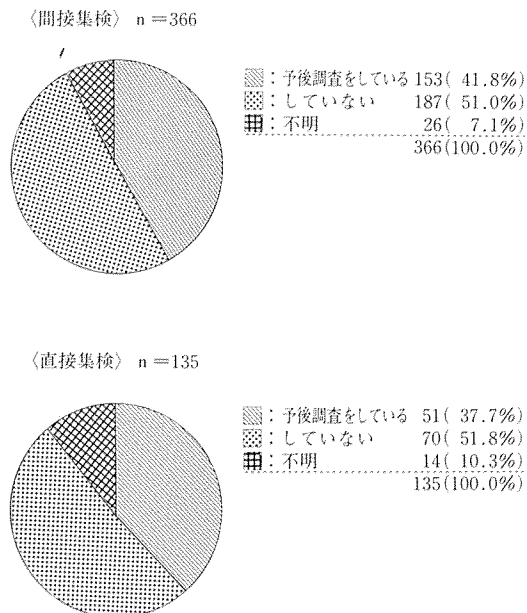


表 7 地域・職域検診別の集検成績 (I, II, III群, 61年度)

(直接・間接合計)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	3,039,498	1,991,354	5,030,852
要 精 検 者 数	440,380	222,387	662,767
要 精 検 率	14.5%	11.2%	13.2%
精 検 受 診 者 数	364,102	157,847	521,949
精 検 受 診 率	82.7%	70.9%	78.8%
発 見 胃 癌 数	4,878	1,044	5,922
発 見 率	0.16%	0.05%	0.12%
早期胃癌の割合	49.8%	54.8%	50.7%

表 8 間接集検の地域・職域別成績 (I, II, III群, 61年度)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	2,881,937	1,744,202	4,626,139
要 精 検 者 数	406,023	215,062	621,085
要 精 検 率	14.1%	12.3%	13.4%
精 検 受 診 者 数	339,696	150,698	490,394
精 検 受 診 率	83.7%	70.1%	78.9%
発 見 胃 癌 数	4,704	843	5,547
発 見 率	0.16%	0.05%	0.12%
早期胃癌の割合	48.2%	53.6%	48.9%

表9 直接集検の地域・職域別成績 (I, II, III群, 61年度)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	157,561	247,152	404,713
要 精 検 者 数	19,706	25,886	45,592
要 精 検 率	12.5%	10.5%	11.3%
精検受診者数	13,786	18,136	31,922
精 検 受 診 率	69.9%	70.1%	70.0%
発 見 胃 癌 数	173	232	405
発 見 率	0.11%	0.09%	0.10%
早期胃癌の割合	61.3%	45.7%	52.3%

表10 年齢別胃集検全国集計成績 (61年度) 男性 (直接・間接集検, 地域・職域集検合計)

	総 数	29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上
A 集検受診者数	2,266,103	52,582	92,745	288,028	363,124	361,980	341,390	333,885	194,472	130,291	107,606
B 要精検者数	373,146	4,787	11,563	32,304	52,411	55,927	61,963	59,891	43,450	28,030	22,820
B / A %	16.466	9.104	12.468	11.216	14.433	15.450	18.150	17.938	22.343	21.513	21.207
C 精検受診者数	289,741	3,208	8,068	23,844	43,613	40,366	46,012	45,666	34,165	25,197	19,602
C / B %	77.648	67.015	69.774	73.811	83.213	72.176	74.257	76.249	78.631	89.893	85.898
D 胃癌	3,722	5	33	135	247	270	437	619	693	611	672
D / A %	0.164	0.010	0.036	0.047	0.068	0.075	0.128	0.185	0.356	0.469	0.625
うち早期癌	1,808	1	14	35	95	117	205	315	369	327	330
胃癌切除数	2,550	2	14	44	121	160	293	453	518	476	469
胃癌手術組織所見数	2,436	2	14	41	111	152	271	443	517	445	440
胃癌うたがい	136	0	1	5	11	12	26	13	21	20	27
胃ポリープ	10,877	27	108	380	911	1,205	1,685	1,851	1,747	1,555	1,408
胃潰瘍	40,306	251	896	3,083	5,228	5,442	6,444	6,808	5,614	3,838	2,702
十二指腸潰瘍	18,850	313	832	2,198	3,320	3,120	3,121	2,766	1,622	892	666
胃・十二指腸潰瘍	3,898	33	106	417	589	650	685	646	387	218	167
その他良性疾病	41,060	327	838	3,114	5,334	5,546	6,762	7,090	5,408	4,011	2,630
その他悪性疾病	502	1	0	26	54	99	103	65	60	52	42
異常なし	170,390	2,251	5,254	14,486	27,919	24,022	26,749	25,808	18,613	14,000	11,288

表11 年齢別胃集検全国集計成績 (61年度) 女性, (直接・間接集検, 地域・職域集検合計)

	総 数	29以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上
A 集検受診者数	2,136,042	15,951	45,012	168,851	314,317	350,793	361,521	351,037	276,534	163,470	88,556
B 要精検者数	242,825	1,006	3,654	14,049	28,880	33,797	41,020	41,954	37,906	24,430	16,129
B / A %	11.368	6.307	8.118	8.320	9.188	9.634	11.347	11.951	13.708	14.945	18.213
C 精検受診者数	205,057	686	2,667	10,946	23,579	28,115	34,286	36,775	32,998	21,352	13,653
C / B %	84.446	68.191	72.988	77.913	81.645	83.188	83.584	87.656	87.052	87.401	84.649
D 胃癌	1,973	7	20	55	132	209	233	309	391	312	305
D / A %	0.092	0.044	0.044	0.033	0.042	0.060	0.064	0.088	0.141	0.191	0.344
うち早期癌	996	2	12	29	67	96	119	144	211	176	140
胃癌切除数	1,379	2	19	39	85	124	175	227	268	232	208
胃癌手術組織所見数	1,265	2	13	34	81	112	156	203	259	220	188
胃癌うたがい	115	0	0	9	19	18	17	18	17	11	6
胃ポリープ	16,932	14	83	493	1,216	1,710	2,626	3,291	3,473	2,450	1,576
胃潰瘍	14,237	48	157	675	1,467	1,883	2,349	2,519	2,407	1,567	1,165
十二指腸潰瘍	7,931	27	139	526	1,088	1,331	1,514	1,389	1,063	530	324
胃・十二指腸潰瘍	1,187	2	21	74	172	189	238	190	176	81	44
その他良性疾病	29,466	49	292	1,292	3,008	3,621	4,753	5,240	5,270	3,453	2,488
その他悪性疾病	192	0	1	8	21	14	43	25	42	25	13
異常なし	133,024	539	1,954	7,814	16,456	19,140	22,513	23,794	20,159	12,923	7,732

図19 性・年齢階級別受診者数 (61年度)

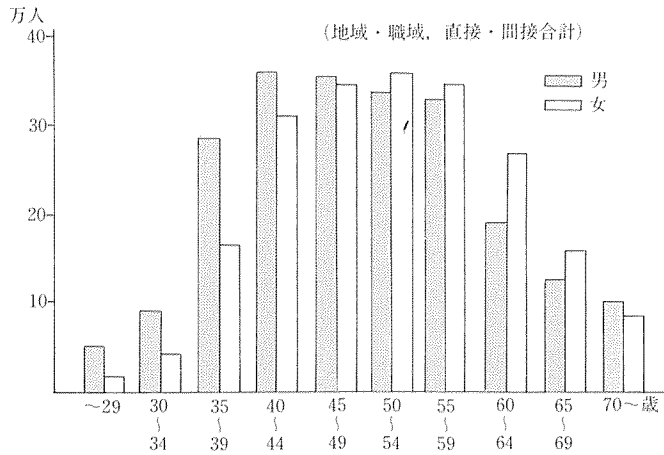


図20 地域検診の年齢階級別受診者数 (61年度)

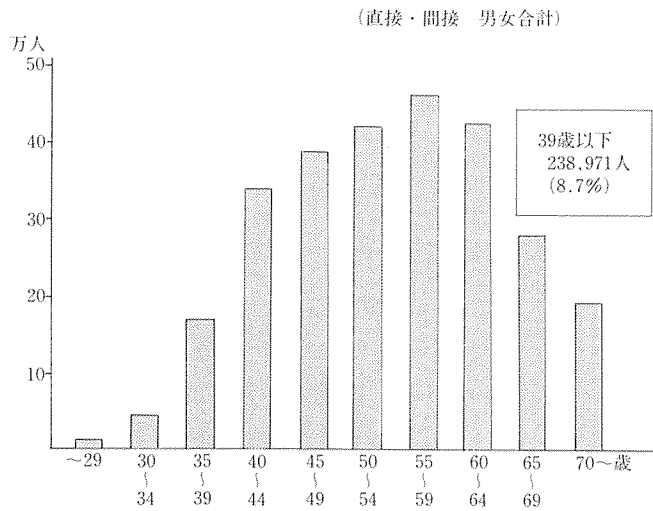
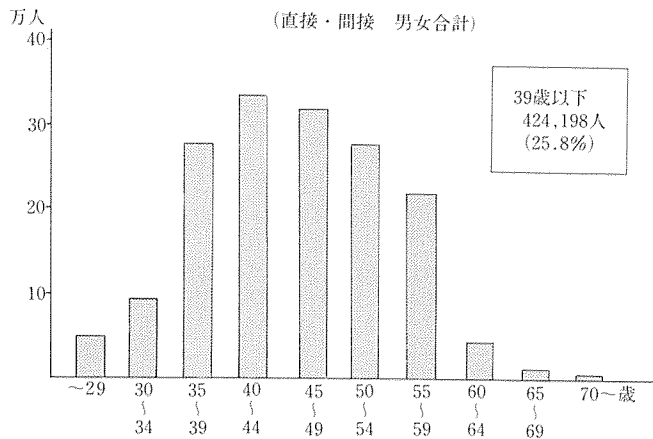


図21 職域検診の年齢階級別受診 (61年度)



9)。

7. 性・年齢階級別受診者数および疾患発見数

地域・職域、直接、間接の合計の、性・年齢階級別の受診者数は、表10、11、図19に示す。男では40代前半に、女では50代前半にそのピークがある。胃癌発見率は男で0.16%、女で0.09%、前者が2倍の発見率であるが、胃ポリープは男が0.48%、女が0.79%で、逆に女性の方が1.6倍発見率が高い。胃潰瘍は、男が1.78%、女が0.67%で、前者が2.7倍である(表10、11)。また、胃集検の対象年齢が40歳以上となっているのにもかかわらず、39歳以下の受診者は男女あわせて66万人おり、これは全受診者数の13%を占めている。

前年度の60万人(11.7%)より増加している。これを地域検診でみると、39歳以下は男女あわせて238,971人、8.7%を占めている(図20)。この数値は、前年度の8.9%とほぼ同様である。さらに、職域検診での39歳以下は424,198人、25.8%で前年度と同様、約4人に1人は、対象年齢以外の若年者の受診者で占められている(図21)。

8. 発見疾患の年次推移

表12は各胃疾患の発見率を経年のにあらわしたも

のであるが、受診者総数Cの数値は、性別、5歳階級別に各疾患の発見数と頻度が算出可能なものを分母として算出したものである。表のうち、Aは発見実数、Bは要精検者が全員精検を受診した場合の推定患者数で、B/Cは推定発見率となる。61年度の成績は、胃癌は0.16%、胃ポリープ0.79%、胃潰瘍1.54%、十二指腸潰瘍0.76%で、前年度とほぼ同様の数値である(表12)。

9. 発見胃癌患者の追跡調査

1) 追跡調査率

発見胃癌の追跡調査成績では、5,922名の胃癌のうち、深達度や病理組織診断などのデータが得られた数(個人票の形で送られてきたもの)は5,353例、追跡率90.4%である。(表13)。

2) 手術成績

手術に関する成績では、5,353例中手術適応となったもの4,923名、92.0%、このうち手術をしたもの4,784名で97.2%の手術率、また、手術の種類は治癒切除が4,225名で88.3%であった(表14、15)。

3) 占居部位

発見胃癌の占居部位は、CMA区分で、多発癌

表12 胃集検による発見疾患とその頻度(年次推移)

胃疾患 \ 年度	57	58	59	60	61
A	4,010	3,312	4,447	5,339	5,696
胃 癌 B	5,029	4,632	5,663	6,827	7,088
B / C	0.14	0.15	0.14	0.16	0.16
A	16,726	16,062	20,737	25,917	27,823
胃ポリープ B	20,978	22,464	26,406	33,142	34,605
B / C	0.56	0.74	0.67	0.78	0.79
A	35,771	37,688	50,028	53,898	54,555
胃 潰 瘍 B	44,864	52,710	63,706	68,923	67,854
B / C	1.21	1.74	1.6	1.63	1.54
A	20,236	18,971	26,028	27,014	26,782
十 二 指 腸 潰 瘍 B	25,380	26,573	33,144	34,545	33,311
B / C	0.68	0.88	0.84	0.81	0.76
被検者総数C※	3,718,276	3,028,787	3,969,578	4,241,103	4,402,145

※ 性別、5歳階級別に集計可能な受検者数を母数とした。

表13 発見胃癌の追跡調査成績(61年度 間接・直接)

年 度	57	58	59	60	61
発見胃癌数	4,010	4,598	5,180	6,240	5,922
追跡胃癌数	3,275	3,896	4,343	4,708	5,353
追 跡 率 %	81.7	84.7	83.8	75.5	90.4

も含めた病巣数でみると, Cが14.9%, Mが44.2%, Aが38.2%であった(表16)。壁在性でみると小彎(33.8%), 後壁が多く(26.1%), 前年度とほぼ同様である(表17)。

4) 大きさ

長径1cm以下の小胃癌が9.7%, 1.1~2.0cmが20.7%で, あわせて約30%を示している(表18)。

5) 切除胃癌の深達度別割合

表14 手術の有無(61年度)(直+間)

a) 手術適応

総 数	適 応	不 適 応	不明・回答なし
5,353 (100%)	4,923 (92.0)	103 (1.9)	327 (6.1)

b) 手 術

総 数	し た	せ ず	不明・回答なし
4,923 (100%)	4,784 (97.2)	51 (1.0)	88 (1.8)

表15 手術の有無(61年度)

総 数	治 癒 切 除	非 治 癒 切 除	吻 合 術	造 瘻	単 開 腹	そ の 他	不明・ 回答なし
4,784 (100%)	4,225 (88.3)	265 (5.5)	58 (1.2)	5 (0.1)	47 (0.9)	12 (0.3)	172 (3.6)

表16 発見胃癌の占居部位 I (61年度)

部 位	病 巣 数	%
C	765	14.9
M	2,262	44.2
A	1,955	38.2
全 体	134	2.6
合 計	5,116	100.0

切除胃癌の深達度別割合をみると, 4,752例のうち, m癌が31.9%, sm が26.6%, あわせて58.5%で, 前年度の59.6%とほぼ同様な数値を示している(表19)。

6) Stage 分類

Stage I は2,340例, 54.1%, Stage IIは16.0%, Stage IIIは20.5%, Stage IVは9.4%であった(表20)。

7) 肉眼分類

従来と同様早期癌ではII c型が多く51.2%を占めている。進行癌では, Borrmann 4型が13.9%, 早期癌, 進行癌あわせた全胃癌に占める割合は5.4%であった(表21, 22)。

8) 胃癌症例の集検受診前歴

受診前歴の記載された切除胃癌4,338例について, 集検受診歴区分でみると, 初回発見例が全切除胃癌のうち38.4%を占め, 1年前受診例, 即ち2年連続受診で発見されたものが38.5%

表17 発見胃癌の占居部位 II (61年度)

部 位	病 巣 数	%
小 彎	1,707	33.8
大 彎	693	13.7
前 壁	992	19.6
後 壁	1,319	26.1
全 周	296	5.9
多 発	42	0.8
合 計	5,049	100.0

表18 発見胃癌の大きさ(61年度)

長 径(cm)	例 数	%
~1.0	448	9.7
1.1~2.0	957	20.7
2.1~5.0	2,145	46.4
5.1~	1,071	23.2
合 計	4,621	100.0

表19 切除胃癌の深達度別頻度(61年度)(間+直)

総 数	m	sm	pm	ss	s	si
4,752 (100.0%)	1,519 (31.9)	1,263 (26.6)	553 (11.6)	646 (13.6)	204 (4.3)	567 (11.9)

m + sm (58.5)	pm (11.6)	ss + s + si (29.8)
------------------	--------------	-----------------------

を占める。

各受診歴区分毎の切除胃癌に占める早期胃癌の割合は図22の通りで、初回発見例が54.6%で

最も低く、1年前受診群が63.0%で最も高い。さらに、2年前、3年前、4年前受診群の早期胃癌割合は各々62.7%、60.3%、53.1%となっている。また、初回発見群の数値に対する有意差検定では、1%の危険率で有意なものは1年前および2年前受診群であった(図22)。

表20 Stage 分類 (61年度)

Stage	例 数	%
I	2,340	54.1
II	694	16.0
III	885	20.5
IV	406	9.4
計	4,325	100.0

表21 早期胃癌の肉眼分類 (61年度)

肉 眼 分 類	例 数	%
I	189	5.8
II a	354	10.8
II b	38	1.2
II c	1,681	51.2
III	14	0.4
II c + III	239	7.3
III + II c	28	0.9
II c + II a	161	4.9
その他の組合せ	264	8.0
分 類 不 能	13	0.4
総 計	3,281	100.0

III 内視鏡胃集検、食道集検、大腸集検および肝胆膵集検全国集計成績

一次スクリーニングとして内視鏡を用いておこなっているいわゆる内視鏡胃集検、食道集検、大腸集検および肝胆膵集検については、前年度と同様に X 線撮影法による胃集検のような受診者の性年齢区分をした詳細な集検成績の回答は求めず、どの程度の数をおこなっているか、発見疾患はどのくらいかの、およその数を知ることが目的とした。

1. 内視鏡胃集検

表22 進行胃癌の肉眼分類 (61年度)

肉 眼 分 類	例 数	%
Borr. 1	121	5.8
Borr. 2	630	30.4
Borr. 3	751	36.3
Borr. 4	288	13.9
分類不能	281	13.6
総 計	2,071	100.0

図22 発見胃癌例の集検受診歴と早期胃癌の頻度 (61年度)

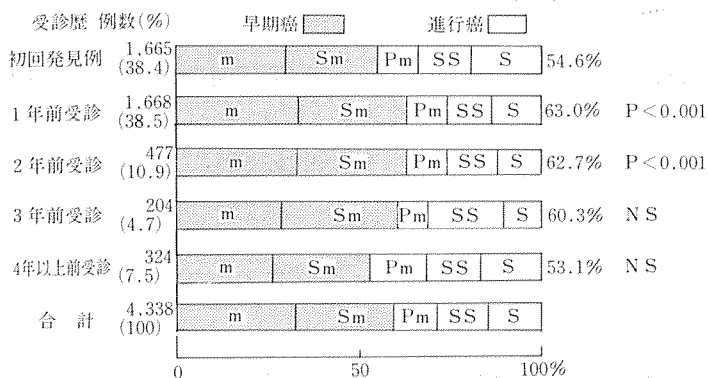


表23 内視鏡胃集検と全国集計成績 (61年度) (1)

年間受検数区分	実施機関数	受 検 者 数	発 見 胃 癌	早期胃癌 (%)
500以上	5	4,423	21	15 (71.4%)
100~500	5	979	5	2 (40.0%)
100以下	9	204	1	0 (0%)
計	19	5,606	27	17 (62.9%)

内視鏡胃集検をおこなっているのは、表23に示すように、全国で19機関で、受診者総数は5,606名、発見胃癌27名(0.5%)であるが、1つの検診機関で年間100名以下のところもあり、これらを集検と扱って妥当かどうかの問題もあり、昨年と同様に、年間500名以上の内視鏡による胃集検を行っている4カ所のもので集計した。

このような条件で集計すると、内視鏡集検の受診者総数は4,423名、発見胃癌21名、頻度は0.5%である(表24)。

2. 食道集検

表24 内視鏡胃集検の全国集計成績(61年度)(2)

受検者総数	4,423人
男	3,017人(68.2%)
女	1,406人(31.8%)
発見疾患と発見率	
胃 癌	21名(0.5%)
〔うち早期胃癌〕	15名(71.4%)
胃潰瘍	183名(4.1%)
胃ポリープ	97名(2.2%)
食道疾患	12名(0.3%)
〔うち食道癌2名〕	

(年間500人以上実施の5機関についての集計)

表25 食道集検の全国集計成績(61年度)

受検者総数	223,479人
男	130,721人(58.5%)
女	54,979人(24.6%)
性別不明	37,779人(16.9%)
発見疾患と発見率	
食 道 癌	16名(0.007%)
食道ポリープ	68名(0.03%)
食道潰瘍またはびらん	26名(0.01%)
静脈りゅう	35名(0.02%)
その他の疾患	981名(0.44%)

表26 食道集検の対象者(61年度)(重複回答)

直接胃集検と同時に	33	(67%)
間接胃集検と同時に	17	(35%)
胃検診受診者から 年齢制限して	4	(8%)
症状のあるもの	3	(6%)
そ の 他	2	(4%)
不 明	4	(8%)
検 診 機 関 数	49	

食道集検は全国で49の機関でおこなわれており、受診者総数は223,479名であるが、性別不明がまだ37,779(16.9%)もある。また、発見食道癌は16名、0.007%、食道ポリープ、0.03%、食道潰瘍またはびらんが0.01%、静脈瘤は0.02%である(表25)。

食道集検の対象者は、直接胃集検と同時にこなっているものが、67%を占めて最も多く、間接胃集検と同時にこなっているものが35%である。また、年齢制限とか、訴えなどを考慮しているものを含めて、大部分が胃集検と関連しておこなっている。また、検診方法は、X線撮影によるものが大部分となっている(表26, 27)。

3. 大腸集検

大腸集検は全国で65の機関でおこなわれている。受診者総数229,653名、集計での性別不明が16.0%ある。発見された大腸癌は202名、発見率0.09%、大腸

表27 食道集検の検診方法(61年度)(重複回答)

直 接	X 線	31	(63%)
間 接	X 線	17	(35%)
内 視 鏡		5	(10%)
細 胞 診		1	(2%)
不 明		7	(14%)
検 診 機 関 数		49	

表28 大腸集検の全国集計成績(61年度)

受 検 者 総 数	229,653人
男	111,777人(48.7%)
女	81,010人(35.3%)
性別不明	36,866人(16.0%)
発見疾患と発見率	
大 腸 癌	202名(0.09%)
ポリープ	1,260名(0.55%)
炎症性疾患	67名(0.03%)
大腸憩室	604名(0.26%)
その他の疾患	640名(0.28%)

表29 大腸集検の対象者(61年度)(重複回答)

年齢を限って	29	(45%)
間接胃集検と同時に	13	(20%)
直接胃集検と同時に	13	(20%)
症状のあるもの	4	(6%)
そ の 他	18	(28%)
不 明	6	(9%)
検 診 機 関 数	65	

表30 大腸集検の検診方法(61年度)(重複回答)

便潜血反応	57	(88%)
内視鏡	6	(9%)
直接X線	5	(8%)
その他	5	(8%)
不明	2	(3%)
検診機関数	65	

表31 肝胆膵集検の全国集計成績(61年度)

受診者総数	185,136人	
男	110,700人	(59.8%)
女	65,110人	(35.2%)
性別不明	9,326人	(5.0%)
発見疾患と発見率		
肝癌(原発性)	27名	(0.01%)
肝癌(転移性)	4名	(0.002%)
肝硬変症	153名	(0.08%)
脂肪肝	5,566名	(3.0%)
肝のうほう	5,052名	(2.7%)
胆嚢癌	22名	(0.01%)
胆嚢ポリープ	5,480名	(3.0%)
胆石症	5,232名	(2.8%)
すい癌	6名	(0.003%)
すい石症	5名	(0.003%)
すいのうほう	64名	(0.03%)
その他	7,241名	(3.9%)

ポリープは1,260名, 0.55%で, 炎症性疾患は67名, 0.03%, 大腸憩室は604名, 0.26%となっている(表28)。

大腸集検のスクリーニング法は, 便の潜血反応を用いているものが88%で大部分を占めている。集検対象者は, 種々であるが, 年齢を限っているものが45%, 間接胃集検の機会におこなっているのが20%となっている(表29, 30)。

4. 肝胆膵集検

肝胆膵集検は, 全国52の機関で実施している。受診者総数は, 185,136名で, 性別不明例が5.0%である。発見疾患は, 原発性肝癌27名, 0.01%, 肝硬変153名, 0.08%, その他小数例であるが, 胆嚢癌0.01%, 膵癌0.003%, 脂肪肝3.0%, 肝のうほう2.7%,

表32 肝胆膵集検の検診方法(61年度)

超音波検査と肝機能検査を併用	22	(42%)
超音波検査のみ	20	(38%)
肝機能検査のみ	6	(12%)
不明	4	(8%)
検診機関数	52	

表33 肝胆膵集検の対象者(61年度)(重複回答)

直接胃集検と同時に	21	(40%)
年齢を限って	16	(31%)
間接胃集検と同時に	7	(13%)
症状のあるもの	2	(4%)
その他	20	(38%)
不明	8	(15%)
検診機関数	52	

胆石症2.8%などが発見されている(表31)。

検診方法は, 超音波検査と肝機能検査の併用が最も多く42%, 超音波検査のみが38%となっている。肝胆膵集検の対象者は, 様々である(表32, 33)。

IV まとめ

昭和61年度の消化器集検全国集計について要約すると以下ようになる。

- (1) 胃集検については, 受診者総数が5,030,852人で, 前年度比-2.5%, 約13万人の減少, 要精検率は, 13.2%, 精検受診率78.8%, 発見胃癌は5,922例であった。早期癌の割合は, 発見胃癌のうち50.7%, 切除胃癌では, 58.5%であった。地域集検は, 全体の約60%の3,039,498人であった。学会の制度として発足した認定医のいる検診機関は195カ所, 53.3%であった。
- (2) 胃集検以外の消化器集検についても前年度に引きつづいて同様の調査をおこなったが, 食道集検, 大腸集検および肝胆膵集検共に年々増加の傾向がみられた。

なお, アンケートの回答をおよせいただいた全国の検診機関, および学会の役職員や事務局の方々, 各県の全国集計協力委員, 認定医の先生方の絶大な協力に対して厚く御礼を申し上げます。

本稿で発表できなかった集計資料は, 昭和61年度消化器集団検診全国集計資料集(1部2,000円, 送料別)としてまとめてありますので, ご希望の方は学会事務局まで申し込み下さい。